

長野県教育委員会

項目	主なご意見等	回答・コメント
長野県の高校教育が目指すべき方向性について	<ul style="list-style-type: none"> ・改革の方向性として県教委の考え方に賛同。この方針に則り改革推進を。 ・長野県の学力向上を第一に考え、他県に類のない大胆な高校改革を。 ・どんな社会を目指し、どんな人間を育てるか、そんなテーマでの学校現場の教員による真摯な議論に発する「ボトムアップの改革」になることを期待。 ・教員の「働き方改革」とも連動した真の「高校改革」を望む。 ・「夢に挑戦する学び」というネーミングには違和感を覚える。 ・投資効果や社会の要請への対応のみで長野県教育の目指すべき方向を決めるべきではない。「人材の育成」でなく「人格の完成」を目指すべきだ。 	<p>○すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びが実現されるよう、高校改革に取り組んでいきます。</p>
「新たな学び」の推進について	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は課題解決型の学びが必要。「新たな学び」の推進に期待したい。 ・「新たな学び」「探究的な学び」は義務教育との接続が重要。小中学校と連携し、義務教育の学習を発展させる方向での推進を求める。 ・「質の高い授業」が高校の最大の魅力。授業改善を中心に据えた改革を。 ・現場の教員が主体的に改革に取り組めるように、県教委からカリキュラムの編成例や「探究的な学び」の具体的な授業実践例を示してほしい。 ・「新たな学び」の推進のためには教員の意識改革が必要。また、教員の資質と力量の向上のために、しっかりした研修制度を構築してほしい。 ・他県の高校教育の研究を進め、見習うべきところは見習うべきだ。 	<p>○すべての高校が、これからの時代に必要とされる力を生徒に育む新たな学びに転換します。（方針1）</p>
「3つの方針」について	<ul style="list-style-type: none"> ・各高校での「3つの方針」策定にあたっては義務教育（小中学校）のグランドデザインも参考にして各校の魅力づくりにつなげてほしい。 ・各校の策定する方針は子どもにもわかりやすい形で提示する必要がある。 ・「3つの方針」については、もっと周知に努めるべきだ。 ・各校に対する策定指針の提示や必要な情報提供を県教委に求めたい。 ・「生徒育成方針」をもとに地域を担う人材をどう育てるのかを示してほしい。 ・「生徒育成方針」の実効性を検証するフィードバックシステムに期待する。 ・「生徒育成方針」の実効性を検証するフィードバックシステムに違和感。 ・「教育課程編成・実施方針」によるカリキュラム整備は、生徒が入学後に不適応を起こさないためにも重要と考える。 ・普通高校での「教育課程編成・実施方針」の具体像を示してほしい。 ・「生徒受入れ方針」は中学生には理解が困難で現実的でない。生徒の差別と選別につながらないかと心配。 ・「生徒受入れ方針」とそれにもとづく入学者選抜の実施により中学校の進路指導が大変になると懸念する。 ・「新たな学び」推進のために「3つの方針」は本当に必要なのか。大学改革システムの援用には抵抗を感じる。 	<p>○高校が新たな学びへ転換するために、県教育委員会が示す作成指針に従って、各校のカリキュラム・マネジメントの考え方を明示した「3つの方針」をすべての県立高校で策定します。（方針1）</p> <p>○「生徒育成方針」の実効性を検証するフィードバックシステムを構築します。（方針1）</p>
多様な学びの場の整備充実について	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の高校の存廃にこだわらず多様で魅力的な学びの場の創出を。 ・私立高校が充実し人気を集める中で、県立高校も魅力づくりの推進を。 ・多様な学びの場と言いながら特化した高校像を示すことは生徒の選択幅を狭めることにならないか。各高校の自由度や裁量権も保障してほしい。 ・地域、企業、小中学校、大学等との連携を進め、キャリア教育の充実を。 ・不登校経験のある生徒や発達障がいのある生徒等、多様な学習歴や生活歴を有する生徒のニーズに応えられる高校づくりを求める。 ・低所得世帯の生徒の通学や学習に配慮した仕組みを整備してほしい。 ・信州のスポーツのレベル向上のために部活動強化の拠点校の設置を。 ・多部制・単位制高校または3修制等の機能をもった高校の拡充を。 ・通信制サテライト構想に賛同。まずは通信制の実態把握を求める。 ・高大連携、産学連携による専門教育の充実を求める。 	<p>○多様化する生徒の学習ニーズや専門教育に応える高校、多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校の整備充実を図ります。（方針2）</p>

項 目	主 な ご 意 見 等	回 答 ・ コ メ ン ト
モデル校について	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校は公募したうえで全県的なバランスを見て配置してほしい。 ・モデル校での研究成果の全県的な普及を求める。 ・モデル校が学校の多忙化につながることはないようにしてほしい。 ・モデル校設置が投資の集中と学校間格差を生じさせるのではないかと。 ・子どもたちの学びをモデル校のテストケースにしないしてほしい。 ・一部の生徒だけが恩恵を受けるような制度には賛成できない。 ・「スーパー探究科設置校」には大学進学指導で実績のある教員の配置を。 ・「信州型SGH指定校」での現行SGH事業の取組の継続を求める。 ・少子化に向けて少人数学級を研究し、ぜひ実現できるようにしてほしい。 ・少人数学級はモデル校方式でなくすべての高校に導入してほしい。 	<p>○本県の高校教育の質的向上、教育課題の解決及び多様な学びの場の創造を目的として、モデル校を指定し、成果を広く県下の高校へ普及させます。 (方針2)</p> <p>○モデル校の特性と全県のバランスを考慮して配置を検討します。 (方針5)</p>
多様な学びの仕組みの整備充実について	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用も含め小中学校と高校が連携して授業改善を進める必要がある。 ・「探究的な学び」推進のための少人数教育の仕組みを構築してほしい。 ・地域と学校を繋ぐコーディネーターの設置を検討すべきである。 ・高校間連携、高大連携、とりわけ県立大学との連携を推進してほしい。 ・特別支援教育充実は大切な視点。先行的な着手を。今後示される方針を踏まえ、特別支援学校としても高校との連携体制構築に努めていきたい。 ・高校改革の中での特別支援教育のあり方について、より具体的に方向性を示してほしい。 	<p>○ICTを活用した教育の推進、特別支援教育の充実、高校間連携・高大連携の推進、デュアルシステムの拡大により、多様な学びの仕組みを整備充実します。 (方針2)</p>
新たな学びにふさわしい環境の整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の整備を早急に進めてほしい。 ・ICTの整備と活用においては学びの継続性という観点から義務教育と充分に連携を取って進めてほしい。 ・生徒の学力向上には中山間地校にこそICT環境の整備が必要と考える。 ・統合型校務支援システムの早期導入を求める。 ・生徒の学習環境整備の第一は教員の増員。高校の教員増を求める。 ・部活動の負担軽減、校務の精選等、教員の労働環境改善は急務。外部人材活用の具体的なビジョンを早期に示してほしい。 ・新たな学びにふさわしい学習環境、生活環境の整備が急務。エアコンやトイレの洋式化は早急に対処してほしい。 ・老朽化した校舎が多いので、早期に改修に着手できるようにしてほしい。 	<p>○学習環境・生活環境の整備、ICT環境の整備と充実、新たな学び推進のための人的配置を進めます。 (方針3)</p> <p>○地域での検討を踏まえて「再編・整備計画」を確定し、再編を実施しない既存校も含めて計画的に整備を進めます。 (方針6)</p>
少子化への対応 都市部・中山間地の整備方針について	<ul style="list-style-type: none"> ・15年後の中学生数の現状から再編は不可避。地域の人材育成の観点からもこの方針に則った改革の推進、再編・整備の推進を求める。 ・都市部と中山間地に分けた再編基準は妥当である。 ・都市部存立校の再編基準は、立地と役割から考えて適切なものである。 ・生徒が切磋琢磨して学ぶために、都市部存立校にはある程度の規模が絶対に必要。活気あふれる大規模な高校の設置を早期に実現してほしい。 ・中山間地校の存続と地域の高校配置のバランスを考慮するなら、都市部の高校の統廃合を大胆に進める必要がある。 ・県全体、地域全体を俯瞰する視点からの高校再編を検討すべき。 ・将来の子どもたちのことを最優先に考えた再編の推進を。決断が必要。 ・大学進学等で県外に出た学生が地元に戻り地域に貢献できる環境を教育界、産業界を挙げて作り上げるべきだ。それが長野県の発展につながる。 ・都市部にも小規模な公立高校があつて良い。再編基準を見直せないか。 ・中山間地の子どもたちにも多様な学びの場を用意すべき。一定の選択肢を維持するには小規模校の「キャンパス化」も視野に入れた検討が必要。 ・地域に根差し地域の特色の一部になっている高校を減らさないでほしい。 ・地域が財政負担すれば高校を残すという方針には反対である。 	<p>○近距離に複数校が存在し、学びの場が確保されている都市部においては、小規模校分立の状況を回避し、教育効果・投資効果の最大化を目指します。これからの子どもたちのために、できる限り早期に、新しい時代にふさわしい新しい学校を再編・整備します。 (方針4)</p> <p>○学びの場の保障が必要な中山間地においては、魅力的な学びの場の創造に向けて、地域と協力した最大限の努力を行っていきます。 (方針4)</p>

項 目	主 な ご 意 見 等	回 答 ・ コ メ ン ト
多様な学びの場の全県への適切な配置について	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の高校だけでなく、すべての高校が再編対象との意識を持つべきである。 ・将来を見据え、大規模校と小規模校がバランスよく配置されることを望む。 ・地域の中に多様なニーズに応えられる環境を整えてほしい。 ・単なる数合わせでなく地域の実情に考慮した高校配置の実現を望む。 ・通学手段への配慮は必要だが、通学方法が確保できれば統合による大規模校化も可能であり、地域の中心に活気ある高校が設置できると考える。 ・中山間地にも普通科をきちんと配置して学びの場を確保してほしい。 ・専門高校は小規模化回避のため総合技術高校にしていくのが望ましい。 ・散在して小規模化している専門科を統合して大規模で魅力ある高校に。 ・全県的な視野に立ち、高校の配置だけでなく専門学科の配置にも配慮を。 ・総合学科は4ブロックごと1校にこだわらずにもう少し増やせないか。 ・南信地区への総合学科高校の設置を。通学利便性から上伊那が好立地。 ・北信地区への多部制・単位制設置の実現を求める。 	<p>○再編を個々の学校の問題として捉えるのではなく、地域全体及び県全体の高校の将来像を総合的に検討することが大切と考えています。 (方針5)</p> <p>○新たな高校配置は、実質的な生活・通学圏域である旧12通学区単位を基本的に検討します。 (方針5)</p>
優先順位を定めた計画的な整備の推進について	<ul style="list-style-type: none"> ・高校改革は財政改革でもある。「選択」と「集中」でスピード感を持って進めてほしい。そのためにも優先順位の決定は重要である。 ・優先順位をどのように決めるのか。 ・地域の合意が得られている案件については早急に進めてほしい。 ・再編が決まったところから予算を重点的に配分して施設整備に着手するのか。既存校の不十分なところはそのままに進めるのか。 ・再編・整備の大前提として必要な予算の確保を。 ・既存校も含めた整備に十分な予算が確保されるか不安。優先順位をつけるなら、その根拠や財政的裏付けの説明を求めたい。 ・統合される高校の歴史や文化が統合校に引き継がれることを望む。 ・統合新校の校名は既存校の名残を残さず斬新なものにしてほしい。 	<p>○地域での検討を踏まえて「再編・整備計画」を確定し、再編を実施しない既存校も含めて計画的に整備を進めます。 (方針6)</p>
入学者選抜制度改革について	<ul style="list-style-type: none"> ・各高校の特色や魅力に応じた入学者選抜の仕組みづくりが必要だ。 ・「生徒受入れ方針」にもとづく入学者選抜制度改革に期待する。 ・通学区の検討が必要。12通学区制の復活も検討願いたい。 ・新たな入学者選抜では県外からの柔軟な生徒受入れの制度化を求める。 ・「生徒受入れ方針」を突き詰めてと独自の入試問題につながるのか。 ・入学者選抜制度の複雑化と「生徒受入れ方針」策定には反対である。 	<p>○長野県高等学校入学者選抜制度等検討委員会の報告書の内容を検討し、その趣旨を活かした新たな入学者選抜制度を構築します。 (方針1)</p>
今後の進め方・スケジュールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委として早めに具体的な地域ごとの高校の将来像を示して地域での協議につなげるべきである。 ・12区ごと個別の高校名を示したうえでの議論が必要である。 ・各論に終始して議論百出ではまとまらないので、県教委の責任あるイニシアティブに期待したい。 ・十分な財政措置を講じ、それを明示したうえでハードソフト両面での改革を推進してほしい。 ・「新たな学び」の推進のためには再編が不可避であることをもって県民に伝えていく必要があるのではないかと。 ・高校再編により中学校現場が混乱しないよう、十分な配慮をしてほしい。 ・今後の高校再編の影響を直接受ける現在の小学校関係者には早めに情報の提供を。 ・再編・整備終了が12年後では緊張感が緩む。スピーディーな推進を。 ・2030年を目途とした再編・整備の計画決定が2021年というのは早すぎる。 ・子どもの将来に関わる重大事なので、もっと時間をかけて進めてほしい。 ・生徒の学習環境の整備は急務である。全県一律でなく地域の合意が得られた再編については計画を前倒しすることがあっても良いのではないかと。 	<p>○2019年9月までに、旧12通学区ごとに「高校の将来像を考える地域の協議会」を地域の協力のもとに順次設置します。 (方針6)</p> <p>○県教育委員会は、「協議会」の意見・提案を踏まえ、総合教育会議での議論を経て、全県的な視野に立って2021年3月に全県の「再編・整備計画」を確定します。 (方針6)</p>

項 目	主 な ご 意 見 等	回 答 ・ コ メ ン ト
<p>県民の意見聴取について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き中学校や大学等、産業界等関係各方面の意見を聞きながら再編を進める必要がある。 ・同窓会員や地域住民の理解が深まるように、説明の機会を設けてほしい。 ・今後もそれぞれの地域の声を聴く機会を設けてほしい。 ・実施方針や再編・整備計画の決定にあたっては、高校の教員や生徒の声を聴く場を設けてほしい。 ・学校現場の教員や生徒の意見を取り入れた再編案をつくることを求める。 ・改革の推進と県民理解促進のためには、テレビコマーシャルなどのメディア活用も有効ではないか。 	<p>○「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針(案)」公表後に、パブリックコメントを実施します。</p>
<p>「高校の将来像を考える地域の協議会」について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の協議会」設置の方向性に賛同。今後の議論に期待する。 ・早急に「地域の協議会」を立ち上げるべきである。 ・県教委に「地域の協議会」の設置と運営のイニシアティブを求める。 ・「地域の協議会」では、教育行政の側から具体的方針を提案してほしい。 ・どこが主体となって再編計画を策定するのか。県教委と「地域の協議会」との関わりが曖昧である。 ・「地域の協議会」での意見や協議会からの提案を最大限尊重してほしい。 ・「地域の協議会」に地域の声がきちんと届くようにしてほしい。 ・「地域の協議会」に高校生の意見が反映されるようにしてほしい。 ・「地域の協議会」では、教育の観点だけでなく、地域振興の視点からも高校の将来像を検討してほしい。 ・隣接する旧通学区との関連を含めて再編計画を検討できるような区割りと構成メンバーの人選を求める。 ・「地域の協議会」には旧区内すべての市町村長や市町村教育長の参加を、それが不可能でも、複数の首長や教育長や教育委員長が参加することを望む。 ・「地域の協議会」に県の関係部局(地域振興、地方創生、産業振興等)も加わって議論されることを望む。 ・「地域の協議会」には同窓会やPTA等の学校関係者を加えるべきだ。 ・「地域の協議会」のメンバーには高校や中学校の教員、保護者や生徒の代表を加えることを望む。 ・「地域の協議会」のメンバーには「公募委員」を加えるべきだ。 ・「地域の協議会」には開かれた議論を期待。会議は公開で行ってほしい。 ・「地域の協議会」は不要ではないか。 	<p>○2019年9月までに、旧12通学区ごとに「高校の将来像を考える地域の協議会」を地域の協力のもとに順次設置します。(方針6)</p> <p>○県教育委員会は、「協議会」の意見・提案を踏まえ、総合教育会議での議論を経て、全県の視野に立って2021年3月に全県の「再編・整備計画」を確定します。(方針6)</p>
<p>地域懇談会について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした地域懇談会を2度にわたって開催し、地域の声を聴いたうえで再編計画を立てようという県教委の姿勢は良い。 ・地域懇談会は今回限りで充分。次の段階に進めてほしい。 ・第2回目の今回は、会場から提案型の発言が多く有意義だった。 ・高校の教員として、地域の方々の意見を聴くことの大切さがよくわかった。 ・今後も数度の意見交換が必要と考える。これからもこうした地域懇談会を開催してほしい。 ・平日の夜間では時間が短すぎる。休日に一日かけて懇談会を開催すべきだ。 ・多くの参加者が発言できるように説明時間を短く、意見交換の時間を長くしてほしい。 ・個々の発言時間に制限を加えてほしい。マナーの問題だ。 ・中学校や高校の教員の手前勝手に要領を得ない発言が多い。一部不快感を覚えるような発言マナーの参加者もあった。 	<p>○ご意見として今後の推進の参考にさせていただきます。</p>

以下は第2回地域懇談会において寄せられたご意見等の中で、各地域あるいは個別の高校に関するもの

地区名	各地域あるいは個別の高校に関する主なご意見等	回答・コメント
北信地区	<p>【旧第1通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の中で2校存続は難しい。最終的に1校になっても納得できる整備の進め方を求める。 ・旧1区でのこれ以上の統廃合は限界、2校を維持すべきである。 ・飯山高校を少人数数学級モデル校に指定してほしい。 ・飯山高校の探究科を充実させモデル校として活性化を図ってほしい。 ・下高井農林高校に全国募集のための寮の整備を。 ・地域の担い手を育成する下高井農林高校の存続を望む。 ・下高井農林高校を「キャンパス校」として残す方向で検討を。 <p>【旧第2通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内各校が魅力づくりに努め、区外流出を防ぐとともに地域の特性を活かした学びが展開されることを望む。 ・再編にあたっては各校のエゴでなく子どもたちのために徹底した議論を。 ・中野西高校と須坂東高校を統合し、より高度な教育を受けられる高校に。 ・中野立志館高校の充実と存続を求める。 <p>【旧第3通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地区の高校の将来的な適正配置は、旧3区だけでなく北信地域全域で考えるべきだ。再編により旧3区への流入が増加することを懸念する。 ・この地区の専門高校は県の産業教育の基幹校。充実と発展を望む。 ・長野市内に4校ある定時制の再編はやむを得ない。 <p>【旧第4通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校再編の必要性は間違いのない事実だ。旧4区では隣接区を含めた早期の検討が必要である。 ・志願者数の多い高校の定員を増加させるのが正当な評価である。 ・松代、更級農業、屋代南の専門科を統合して総合技術高校とする。 ・屋代南高校を多部制・単位制に転換し存続させるべきだ。 ・多部制・単位制の設置は北信の中心が適当。屋代南の位置が必ずしも適当とは言えない。 ・屋代高校の学級減は検討されないのか。 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>
東信地区	<p>【旧第5通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地区からの流入が多い旧5区の高校再編を、区内の中学校卒業生数の予測だけを根拠に検討することには反対。 ・多部制・単位制高校や通信制サテライト校は今後必要性が高まると考える。既成概念にとらわれず、現状を大胆に転換させる学校も必要である。 ・県立高校同様に、県立学校である上田養護学校の環境整備の検討を。 <p>【旧第6通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学の便が良くない地域での高校再編においては、通学利便性の向上とともに通学困難な生徒のための寮の整備等も検討すべきである。 ・佐久地方に県立の中高一貫校設置を求める。 ・佐久地区に卓越性を担保した規模の大きな高校を設置してほしい。 ・小諸高校と小諸商業高校の統合は両校関係者の合意形成がなされており、今後、県教委の再編統合への支援を求めたい。 ・軽井沢高校の特色ある学校づくりを地元自治体として町を挙げて協力、支援していく。軽井沢高校については存続の方向で検討されることを望む。 ・小海高校は地域に必要な学校。存続と発展を求める。 ・望月高校の位置への通信制サテライト設置構想に賛成。今後は生徒の通学手段の確保等実質的な検討と準備を進めてほしい。 ・望月通信制サテライト構想について、なぜこの時期に報道されたのか。 ・望月高校の将来像は、観光系の学科の新設等を含め、第2期高校再編の中で検討すべきである。現在の構想や計画は白紙に戻すべきだ。 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>

地区名	各地域あるいは個別の高校に関する主なご意見等	回答・コメント
南信地区	<p>【旧第7通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の学校が残れば良い」という考え方から脱却し、高校改革の推進を。 ・地域には様々な意見があるが、将来のための新しい学校づくりが必要だ。 ・岡谷東高校の統廃合には反対。都市部存立普通校の再編基準見直しを。 ・下諏訪向陽高校を「中山間地存立校」に位置づけられないか。 <p>【旧第8通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北に長い上伊那地区のそれぞれの地域の理解が得られるような再編・整備計画の立案を望む。 ・伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校の統合を早く進め、できるだけ早く活気ある新しい高校をつくってほしい。 ・農・工・商の専門科が区内数校に散在。統合して産業教育の拠点づくりを。 ・赤穂高校と駒ヶ根工業高校の統合という考え方はないか。 ・高遠高校は地元の子どもたちにとっても地域にとっても大切な学校。地域振興という観点からも存続を求める。一律の基準適用の回避を。 <p>【旧第9通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田地区から箕輪進修高校への通学が困難。多部制・単位制の機能を持った高校を飯田下伊那に設置してほしい。 ・下伊那の高校の将来について、義務教育の現場の先生方が子ども本位で真剣に考えてくれていることが会場での発言からわかった。 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>
中信地区	<p>【旧第10通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部と異なる再編基準の設定は通学の困難さを抱える地域にはありがたい配慮。柔軟な対応の中での木曽地域の2校存続を求める。 ・蘇南高校の総合学科は「新たな学び」の実例。2学級を維持して存続を。 ・少子化の進行を考えると木曽地域で2校の存続は困難。検討が必要。 ・地域の中学生の希望と高校の学科定員設定がマッチしていない。設置学科等の見直しにより木曽青峰高校の普通科の拡充を求める。 ・木曽青峰高校への少人数学級と産業スペシャリスト育成モデル校指定による普通科定員増と、林業大学校や技専と連携した学びの構築を期待する。 ・木曽青峰高校の理数科を探究科に転換、森林環境科とインテリア科は全国募集として同校の活性化を図るべき。 <p>【旧第11通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私学が多い旧11区では、私立高校との関係も十分に考慮した県立高校の配置や将来像を考えるべきだ。 ・旧11区では、私立高校や広域通信制の学びが充実している。公立高校も魅力づくりを進めてほしい。 ・安曇野地域の産業教育の拠点づくりのために、穂高商業高校と南安曇農業高校は12区の池田工業高校との統合により総合技術高校とすべきだ。 <p>【旧第12通学区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当地区では、第1期再編の成果も踏まえ、旧11区への生徒の流出をどう考えていくべきかを中心に安曇地域も含めた高校の将来像を議論したい。 ・少子化の課題には隣接県糸魚川地区とも県境を越えて取り組むべきでは。 ・大北地域の3校がそれぞれの特徴と魅力を活かして存続できると良い。 ・大北地域に全寮制の中高一貫校をつくり大学進学への拠点にしてほしい。 ・池田工業高校の取り組むデュアルシステムや地域の取組である「高瀬プロジェクト」を継続し、同校の存続と発展を図っていくことが大切ではないか。 ・池田工業高校は、南安曇農業高校や穂高商業高校と統合し、地域の産業教育の充実と人材育成の拠点としての発展を図るべきだ。 ・地元自治体の財政支援規模に鑑み白馬高校は組合立高校にできないか。 ・生徒の通学利便性に考慮し、池田工業高校から大町岳陽高校への定時制課程の移管を。 	<p>○今後の検討の中で参考にさせていただきます。</p>

長野県教育委員会

団体名	主なご意見等
長野県中小企業団体 中央会	<ul style="list-style-type: none"> ・県内には高校卒業後の選択肢が少なく、優秀な人材が県外に流出してしまう。産業界と県が方針を作り、若者が選択できる環境を整える必要がある。 ・工科短期大学校などと連携し、高大で一貫した人材育成へのビジョンづくりが必要である。 ・「新たな学び」の推進により、チャレンジ精神豊かな人材の育成に期待する。
(一社) 長野県経営者協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの改革」の推進には、教員の人事制度の刷新が必要である。 ・教員の多忙化を解消し、生徒の教育や成長の支援に専念できる環境の整備が必要である。 ・地元企業の良さを知る機会を増やすことが、地元に戻ることを促す。 ・学校と地域が連携して、挨拶やマナーなどの育成を図っていく必要がある。 ・生徒がプライドを持って学べる教育環境の整備を求める。
(一社) 長野県商工会議所 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小から継続して地域の産業を知ることが、地域の担い手の育成につながる。 ・インターンシップなどの社会や企業での体験が、目的意識を持った進路選択につながる。 ・高校では基礎、基本の習得と共に、探究的に学ぶ姿勢や、学び続ける姿勢を教えることも大切である。 ・社会と結びついた学びを通じて、社会を築く気持ちを育てることが大切である。
(社福) 長野県社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関する学科やコースを全県均等に配置するとともに、福祉系クラブ活動等による人材育成を求める。 ・「フィードバックシステム」は「生徒育成方針」の実効性の検証に留まらず、先輩の姿を知ることにより後輩が将来を考えるきっかけにもなる。 ・高校間連携を通じて、高校入学後に転学等による進路変更を可能にするシステムを期待したい。 ・福祉現場での体験を増やす中で、高校生も地域の福祉問題に積極的に取り組んでほしい。 ・「育てたい人物像」は大人の願いだけを先行させずに、子どもからの視点が必要である。 ・「キャリアデザイン力」の育成は重要性が増している。自身の将来を自ら考える力の育成が必要である。
(一社) 長野県高齢者福祉事業 協会	<ul style="list-style-type: none"> ・公立高校に福祉学科の設置を要望する。 ・介護人材の確保に向けて、高校生や教員が福祉の現場を見て理解を深め、福祉マインドを醸成する必要がある。 ・県教育委員会は、県健康福祉部と連携して生徒が長野県の福祉の現状や施策について理解を深める方策を講じてほしい。
(一社) 長野県観光機構 長野県旅館ホテル組合会	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力を身につけ他者とのネットワークを築くことが、自己実現の可能性を広げる。 ・子どもたちに目的意識を持たせ、将来を考えさせた上で、進路実現を支えることが教育の目的である。 ・地域をより深く知る活動をとおして、地域の価値を再発見・再評価できる仕組づくりが必要である。 ・県外から戻りたいと思える魅力ある企業が県内にあるのか。 ・信州大学と連携し、大学で「信州学」を学ぶことにより、他県からの学生に長野県の魅力を知ってもらい定着を目指してはどうか。 ・家庭教育の立て直しが必要である。 ・突出した能力の育成を目指すなどで特長ある高校を作り、差別化を図ってはどうか。
長野県商工会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの改革」を推進するためには、教員も社会に参画するなどにより変わる必要がある。 ・「学科を横断した学び」はこれからの社会で必要とされる学びである。社会の変化に柔軟に対応できる総合技術高校は実社会に則した学校と考える。 ・商工会や企業が学校と連携し、生徒を育てていきたい。 ・起業を目指す人材の育成も必要である。 ・「中山間地存立校」の考え方は地域に安心をもたらす。

団体名	主なご意見等
(一社) 長野県建設業協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな学び」の推進のためには教員の資質向上と感性を磨くことが必要である。 ・長期間、繰り返しインターンシップを行なうことが、地域の人材確保につながる。 ・協会として土木建築系専門学科の募集枠拡大と、諏訪地区への学科設置を求める。 ・「2級施工管理技士試験」対策講習や、課題研究への協力、教員向け研修会の実施などを通じて今後も学校との連携を深めたい。 ・離職率の高さを考えると、専門学科でしっかりと進路の方向を定める教育が大切である。
(一社) 長野県建築士事務所 協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな学び」の推進には、教員自身の意識改革や、様々な体験が必要である。 ・建築の経験や現場を知る教員が少ないので、業界との連携や交流は今後も進めたい。 ・早期の進路選択を進め、進路を明確にした上でのキャリア教育の推進を望む。 ・建築の実際を知る機会を増やしたい。
長野県森林組合連合会 長野県木材協同組合 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の特色や教育内容と進路とのつながりをはっきりと示すことが、中学生の進路選択に役立つ。 ・統合校で複数の学科が存在する場合、生徒の学力などで較差が生じることを危惧する。 ・地元企業での職場体験などが、高校での学びにつながる大切である。 ・「3つの方針」の策定には、中学生に何を学ぶか、どう学ぶかの意思が必要であり、そこまでの意識がない生徒がいる現状では形骸化する恐れがある。
JA長野中央会	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人から生き方を聞くことは刺激となり、学びの意欲や発展につながる。 ・職業観や社会性の育成には、小中学校から大学、専門学校にいたる連続性や一貫性が必要である。 ・幼少期からの食育は重要である。 ・型にはめた教育では、多様な考え方や個性は育たない。
(一社) 長野県測量設計業協会	<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後の学びの場として、県工科短期大学校への建築系学科や、働きながら学べる場の設置を求める。 ・測量士の仕事の理解と普及を図るために、建築系高等学校を対象とする就労支援事業を継続したい。 ・県内に測量系の専門資格を取得するための学びの場が少ない。 ・専門資格の取得は業務遂行上不可欠であり、離職防止にもつながる。

※懇談会を実施した順に掲載